

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成19年7月26日(2007.7.26)

【公開番号】特開2006-232182(P2006-232182A)

【公開日】平成18年9月7日(2006.9.7)

【年通号数】公開・登録公報2006-035

【出願番号】特願2005-52136(P2005-52136)

【国際特許分類】

**B 6 0 R 1/072 (2006.01)**

【F I】

B 6 0 R 1/072

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月13日(2007.6.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 6】

図8は、パルス受付許可時間にノイズパルスPNが検出された場合の、設定例1と設定例2による動作の違いを示す。この例では、図8(a)に示すように、正規のパルスP<sub>n</sub>, P<sub>n+1</sub>のパルス区間nにおいて、パルスP<sub>n+1</sub>の直前でノイズパルスPNが発生している。このノイズパルスPNは、図8(b)の設定例1による場合も、図8(d)の設定例2による場合も、パルス受付許可時間内で発生されたため、図8(c)、図8(e)にそれぞれ示すように、カウンタ41のカウント値はこのノイズパルスPNで1カウントアップされている。また、図8(b)、(d)にそれぞれ示すように、このノイズパルスPNのタイミングで、次のパルス受付禁止時間が開始され、正規のパルスP<sub>n+1</sub>は除去されている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 2】

これに対し、設定例1による場合は、パルス受付許可時間の開始タイミングは常にパルスの発生時点であるので、設定例2による場合のようなパルス受付禁止時間終了タイミングの延長分の蓄積が生じない。その結果、正規のパルスP<sub>n+8</sub>が発生される前にパルス区間n+7のパルス受付禁止時間が終了し、図9(e)に示すように、正規のパルスP<sub>n+8</sub>が除去されることなく正しくカウントされている。したがって、定常速度での動作モード時に、何らかの原因でモータ速度が上昇した場合には、設定例2に比べて設定例1を使用した場合の方が、モータ速度が上昇した場合にカウント誤差が生じる確率を低減できる。

【手続補正3】

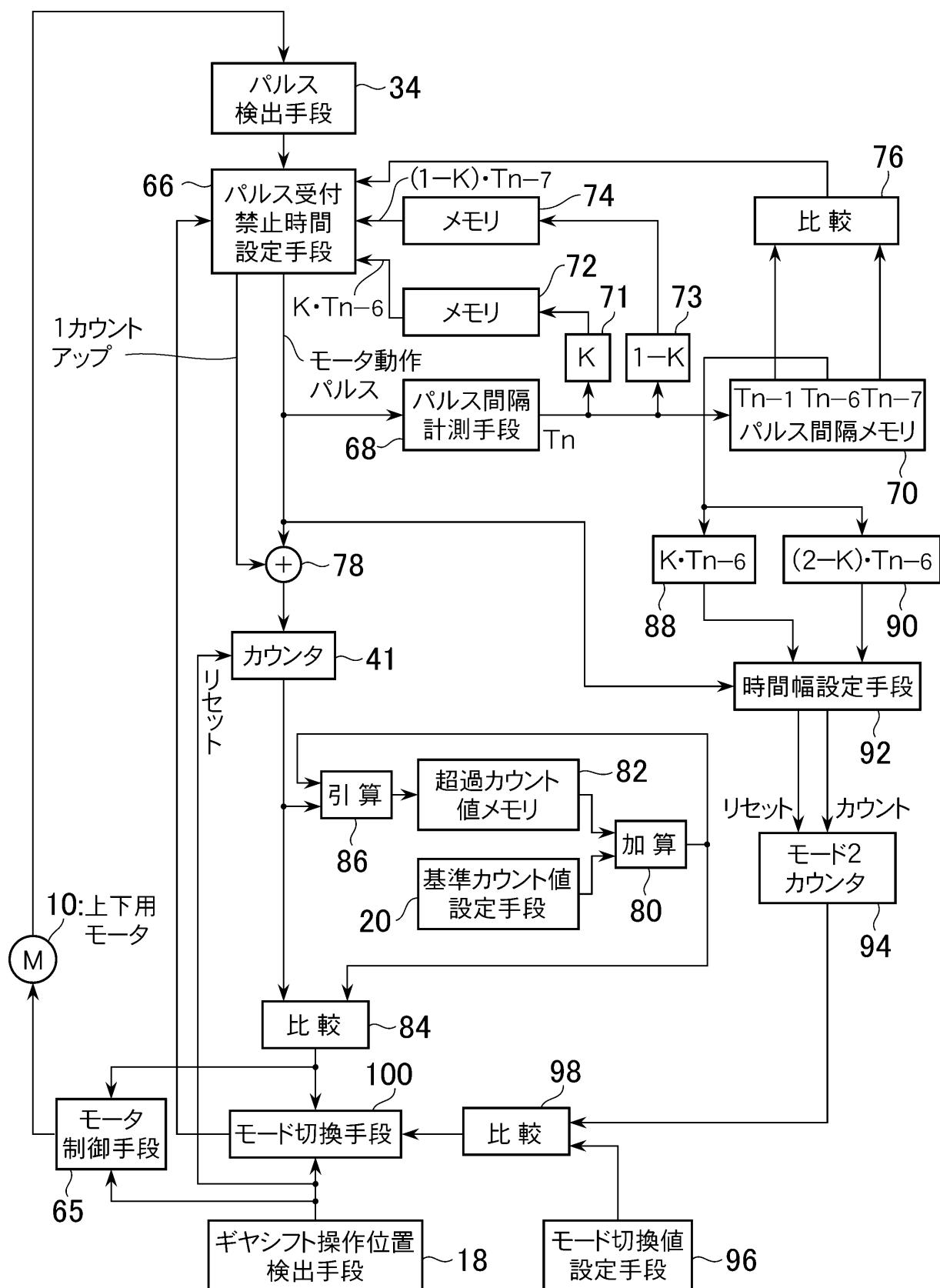
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

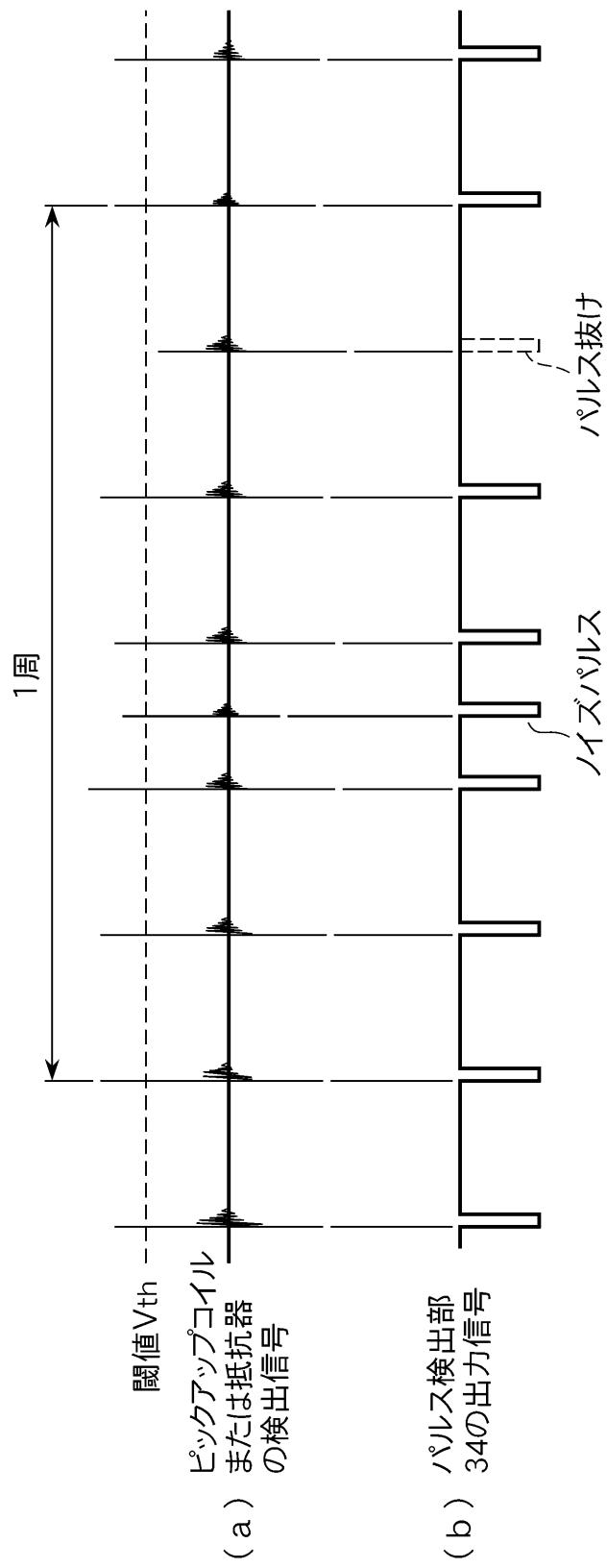
【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】



【図4】



【手続補正5】

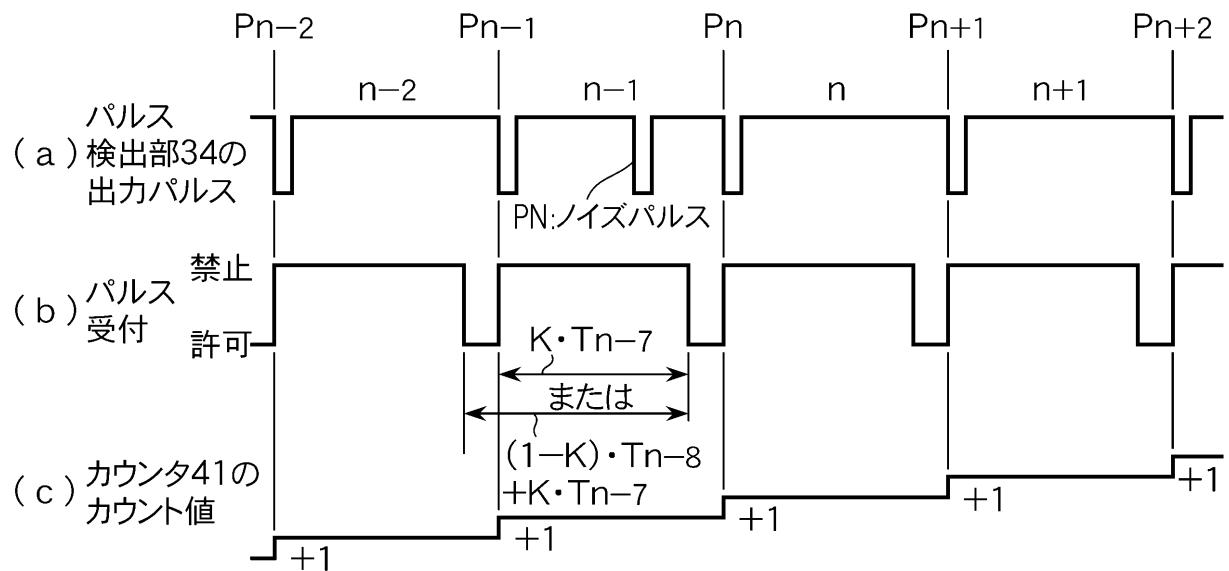
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図6】



【手続補正6】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 8 】

